

児童・生徒の現状・課題

学習への意欲は高く、課題に取り組むが、できないことがあると諦めてしまったり、次の手だてを取ったりすることができない。どこができていないのか、どうすればよいのかを振り返って考えられない。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○一人一人に基礎的・基本的な「できる学力」の定着を図るために、児童の実態に応じて指導内容や方法、計画を常に見直し、繰り返し学習を通して、教材・教具の工夫を図った授業を実施する。

**具体的な手だて①**

漢字力、計算力の定着を課題とし、週3回のモジュールの時間を活用して漢字の学習や計算練習を行う。

具体的な手だて②

「見通しをもたせる導入から初発問の工夫」を視点とした校内研究を進めることで教員の授業力向上に努める。

具体的な手だて③

単元の途中や1時間の途中で振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・OJTを活用し、普段から使えるICTの効果的な実践を共有する。
- ・管理職の授業観察の際は、指導案を教員にも配布し、授業を互いに見合う機会をつくる。

※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	70	80	77
②課題や問題に対して、自分の考えをもったり、行動に移したりすることができる。	67	80	78

教員調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	83	85	71
②ICTを授業で活用することについて自信がありますか。	45	70	71

総括(5月)

全国学力学習状況調査の結果を見ても、無回答という児童が7%程度おり、最後まで粘り強く取り組むことができずに諦めてしまう児童もいる。今後は、児童が自ら学び方を選択し、主体性を育めるような自由進度学習を取り入れていくことも大切なのではないかという意見もあった。そこで、日々の授業において児童の興味関心を引き出す授業を行うために、様々な手だてで児童が学習に取り組める方法を提示していくことを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)

児童生徒調査については、5月に立てた目標値を超えることはできなかったが概ね達成できたと思う。これは、今年度の校内研究で意識してきた「見通しをもたせる導入から初発問の工夫」が生かされた結果が出たとも考えることができる。教員調査においては、個別最適な学びに関する項目が目標値を下回ってしまったのでこれからも意識し改善策を考えていかなければならない。